

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2392600124 | | |
| 法人名 | 医療法人信愛会 | | |
| 事業所名 | グループホーム秋桜の里 いちごユニット | | |
| 所在地 | 愛知県豊川市三蔵子町北浦25番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年1月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年4月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosvoCd=2392600124-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階 |
| 訪問調査日 | 平成29年2月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人で、同法人のクリニックと訪問看護ステーションと提携し、24時間の医療連携体制をとっており、入居者・家族・スタッフの安心につながっている。訪問看護のほか、ケアプランセンター・多機能サービス・デイサービス(ケア)・ショートステイ等の在宅サービス・施設サービスとして特養・老健等があり、入退居にあたってはグループホームだけではなく、ご本人が必要とするケアサービスについて、入居者・家族・医療スタッフと一緒に考え検討していくことができる。ケアについては、季節の行事以外にも誕生日の外出や個別の外出を行っている。食事や休息・余暇活動等において一人ひとりの生活のリズムに沿った対応をこころがけ実践している。その先に看取りも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地の中に特別養護老人ホーム秋桜の里やショートステイ秋桜の里、ケアプランセンター秋桜の里等が建ち並び、その一角にグループホーム秋桜の里がある。クリーム色とブラウンのツートンカラーで落ち着きがある2階建て、1階が2ユニットのグループホーム、2階には穂の国訪問看護ステーション秋桜の里がある。今年で3年目を迎える施設は母体が医療法人であり、24時間の医療体制や訪問看護との連携で手厚い医療支援が提供されている。入居者や家族、職員の安心につながっている。入居者の介護度が上がってくる中で、本人や家族の希望により看取りまでの取り組みが行われている。「普通のことを普通にできる生活」を目指して入居者に寄り添いながら、職員間で協力し合って支援に努めている。家族からは「家族的な雰囲気ですぐに接して下さるので安心・明るい和やかな雰囲気です訪問しやすい」などの声が聞かれている。フロアには入居者が書いた習字が飾られ、季節のお雛様の飾りが置かれている。入居者は穏やかでにこやかな表情で自分らしくゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は事務所に掲示しており、毎週月曜日の朝礼で理念を音読し、共有・実践につなげている | 理念は事務所に掲示してある。毎週月曜日の朝礼時に音読して理念の共有を図り、ケアに活かすように努めている。年2回理事長による事業所理念についての講話がある。新規採用職員にはオリエンテーション時に個別説明をして周知し実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入り、地域の活動に参加している。地域の保育園とも特養を通じ交流している。 | 町内会に加入し、回覧板や運営推進会議等を通じて情報を得て地域行事に参加している。初詣や地域の祭、日々の散歩等で交流を重ねたり、地域活動として神社の清掃に参加して。地域の会議に出席して当番業務を行う等地域の一員として活動している。地域の保育園の園児とも特養を通じて交流をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の人々に向けて貢献できるような機会をまだ作れていないのが現状。今後の課題でもある | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回の開催、町内会長、包括支援センター職員や入居者・家族と、活動報告を通して日々の取り組みを理解して頂いている。また、それぞれに意見をいただき、サービス向上に活かしている | 入居者や入居者家族、町内会長、地域包括センター職員、認知症知見者(法人職員)の参加を得て、2か月に1回開催されている。入居者の状況や事業所の活動報告を行い、参加者からは意見や要望を聞き、話し合っサービス向上につなげている。 | 地域情報を広く得るために、地域の民生委員にも参加を依頼したり、運営推進会議の意義や目的を知ってもらい、より多くの家族参加を得るためにも、議事録は家族全員に配布されることを望みたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 豊川市の介護保険事業者連絡協議会に参加し情報交換をしている。市担当者とは様々な手続きを通して情報交換をし、指導・助言を受けている。また、豊川市の介護相談員派遣事業の受入もしている。 | 市の担当者とは更新手続き等で訪れた時、情報交換をしたり助言や指導を受けるなど良好な関係を築いている。入居者を同行することもある。市の介護保険事業者連絡協議会に参加し情報交換をしたり、豊川市の介護相談員派遣事業の受入も行っている。研修会に参加する等協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中玄関は施錠していない。扉の開閉はチャイムで知らされ見守りを行う。他、徘徊に関しても見守りを行い拘束はしていない。また言葉遣いのアンケートも実施し、不適切な言葉遣いに注意している。 | 本人や家族には入居時に身体拘束をしない方針を説明し、リスクについても説明している。日中は玄関の施錠はせず、扉の開閉はチャイムで見守りを行っている。言葉遣いアンケートも接遇教育の一環でなされ不適切な言葉遣いは相互に注意し合い、職員全員で拘束感のないケアに努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止の研修を受講し、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要に応じて関係者との情報交換をし、活用に向けて取り組んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時には、契約内容を具体的に説明し、不安や疑問に対しては十分な理解を得られるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議では参加者からの意見要望等もあり運営に反映している。普段の面会時でも、家族と話す機会を作る事で色々な意見を取り入れられるよう努めている。 | 入居者からは日々のケアの中から意見や要望を聞いている。家族からは、運営推進会議や面会時、行事等で気軽に話す機会を作り、意見や要望を聞くようにしている。担当職員が、入居者の様子を手書きした毎月の便りは家族とのコミュニケーションが良好となり、色々な意見が聞かれるようになった。出された意見や要望はカンファレンス等で話し合い運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング等で職員の意見や提案を出せる機会がある。また出来る限り要望に沿えるよう努めている。年一回自己評価表の提出、職員満足度調査を法人で実施し意見の集約に努めている。 | 日常の業務や申し送り時、各フロアミーティング等で意見の言いやすい環境作りに努めている。各フロアミーティングも開始時間を工夫したり、相互に協力し合うことで参加率が上がってきている。年一回の自己評価表や職員満足度調査を法人で実施し意見の集約に努め運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 自己評価表、職員満足度調査職員など行い個々の状況把握に努めている。また、定年の延長や資格手当パート賃金の見直し等を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人研修をはじめ、個人の力量に合わせた研修システムがあるが、なかなか参加出来ないのが現状。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に参加し、他事業所との情報交換の場としている。法人内の事業所と合同イベントを行う機会もありお互いの刺激になっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面接等で本人や家族の要望や不安を伺い、安心して暮らしていただけるよう信頼関係を築いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面接時に得た情報を、書面や口頭で職員に周知し信頼関係の構築に努める。また、家族や面会者に対し、気軽に話ができる雰囲気を作る事で相談しやすい環境をつくっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 導入段階で、必要に応じ他のサービス、他の事業所の情報提供もしている。同法人のサービス以外にも、わかる範囲で近隣介護サービスの情報提供も行う。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、される側という関係より、共に生活するという気持ちを持ち接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時には近況を伝えると共に、その時の家族の思いや、家族しか知らない情報を聞き出せる機会と考えている。また、支援の内容によって家族に協力をお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 月に1回、妻の墓参りに行っていた入居者は、入居してからもそれが途切れないように支援している。親戚・知人等の面会もあり、それが途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。年賀状の作成も行い家族に向けて送付した。 | 入居時にヒヤリングをして馴染みの人・場などの把握を行っている。月に1回の妻の墓参りを継続したり、親戚・知人等の面会では、ゆっくり落ち着ける居場所を調べて訪問しやすい雰囲気作りを工夫している。週1回の買い物に行くスーパーマーケットや薬局など馴染みの場所となっている。年賀状の作成し、家族に送付して喜ばれた。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者の個性を理解し、入居者同士の関係が円滑にいくような支援ができるよう努めている。また、トラブルになりそうな入居者同士には食事の席等にも配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用終了の際、いつでも訪問していただけるように声を掛けを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話から本人の思い、希望を把握できる様努めている。困難なニーズに対しては筆談等代替案を検討している。 | 入居者に寄り添い傾聴に努めている。日々の会話や表情から本人の思いや希望をくみ取ったり、全盲に近い方に対しては点字の書物や市の広報などを市から提供してもらっている。難聴や意思を表現するのが困難な場合も代替え案や筆談でコミュニケーションをとり、スタッフ間で共有しケアに活かしていけるよう検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時は聞き取りにて基本状況を作成し、その後は本人や家族との会話の中で情報を収集している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 見守り行い、日々の生活の中で小さな変化を見逃さない様に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族の意向を聞きながら、介護計画を作成しているが、職員全体が関わり把握できていない現状がある。モニタリングを含め今後の課題となる。 | 入居者担当者の情報や面会時等に得た家族から意向・希望、医師や訪問看護の指導やアドバイスを基に計画担当者が現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3か月に1回、計画の見直しは6か月に1回であるが、状況に応じて随時見直しもしている。職員全体が関わりを把握できていない現状があり、今後の課題として改善に向けた取り組みをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録の記入と、申し送り時や申し送りノートを活用することにより情報の共有に努め、日々の実践や介護計画にも反映されている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況により柔軟な支援サービスに努めている。訪問看護・訪問診療等他職種や他の事業所とも連携をとっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の保育園と交流を持ったり、町内清掃に参加し地域との関わりが持てるように支援している。また、地域の薬局やスーパーへの買物にも入居者と出かけている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に選択していただいている。24時間対応。月2回の訪問診療があるため法人の診療所がかかりつけ医となっている。かかりつけ医・協力医への受診は職員が行う。 | 入居時に今までのかかりつけ医か法人ホームドクターかの希望を聞いている。24時間の対応と月2回の往診があるためホームドクターに変更する入居者が多い。往診時には看護師と薬剤師が同席し、情報の共有をしている。かかりつけ医や協力医、皮膚科等の専門医への受診は家族や職員が行い記録と申し送り周知しケアに活かしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと契約をし、週一回の健康チェックや、日常の相談、24時間急変時の協力体制をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ | 出来るだけ早期に退院できる様に情報交換に努める。退院に向けて事業所で準備することは事前に話し合いをする。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に家族に説明、医師同席で意向確認を行う。状態が変わった際には必要に応じて再度意向確認を行う。ホームにおいてできる事を説明し、隣接する特養も視野に入れ、「本人にとってより良い生活」を考えながら支援している。看取りを行う場合もある。 | 入居時に重度化した場合の基本方針を家族に説明し、医師同席で意向確認を行っている。状態変化があった場合は、再度医師から家族に説明を行い意向確認を行っている。ホームで出来ること出来ない事を説明し、隣接する特養等も視野に入れながら「本人にとってより良い生活」を第一に支援をしている。家族や医師、訪問看護、介護職員等と連絡を密に取りながら、看取りに向けた支援を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 初年度には上級救急救命講習会にほぼ全員参加し、緊急時に対応できるようにしている。研修参加や年2回程度訓練の機会を定期で行っていく事が今後の課題となる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策は遅れている。夜間想定訓練は実施できていない。今年度より法人でBCM委員会が発足。エリアでの防災対策も検討している。 | 今年度より法人でBCM(防災計画)委員会が発足した。エリア内での防災管理・防災対策も検討している。通報訓練は行われ、3月に夜間想定での火災訓練が予定されている。 | 法人組織で取り込まれる防災計画には心強いものがあり期待も大きい。ホームとして日々生活の中での防災の心構えは大切である。職員カンファレンスや運営推進会議で機会あるごとに、入居者安全について検討されることを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自分らしくありたいと思う気持ちを大切に してプライバシーの保護に努めている。個人 のスタイルを考慮して居室でも過ごせるよう 配慮している。また、入居者の個性や相性 も考慮して対応している。 | 家とは違う環境の中においても自分らしくありたいと思 う気持ちを大事にしている。個人の生活スタイルを大切に して、居室でもその人なりの自分らしい生活が出来るよ う支援している。日常の声かけや会話なども、その人の 個性や暮らしてきた背景等を考慮しながら、誇りやプライ バシーを損なわない対応に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望をくみ取り、自己決定で きる様働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来るだけ本人の希望にそえるように支援 している。その人に合った役割を持てるよう 努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している | 清潔保持に努め、その人らしい個性を出せ るよう配慮している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている | 週2回の自由献立の際、入居者と相談しな がらメニューを決め、買物調理を実施してい る。盛り付けなどの準備、食器拭き等、出来 ることを見つけ行ってもら。夕食時希望に てアルコールをとられる方もいる。 | 法人の管理栄養士の献立を基に食材が届けられ、各ユ ニット間で協力し合って調理をしている。週2回の自由 献立の際には、入居者の希望を聞きメニューを決め、買物 や調理を事業所で行っている。入居者の保有能力やそ の日の気分に合わせて、盛り付けや準備、食器拭き等、 職員と一緒にしている。夕食時の晩酌にも対応し、そ れぞれが食事を楽しめるように支援をしている。季節の 行事食も楽しみの一つとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている | 献立は管理栄養士が作成している。必要に 応じて個別に摂取量・水分量チェックもい、 必要な水分・栄養が取れるよう支援してい る。嚥下に不安のある方は水分にとろみを 付ける等対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている | 毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応 じて声掛け・介助を行う。義歯の預かりも実 施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表に記入し、個人の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を促している。立位不安定の方も可能ならば二人介助で排泄誘導を行っている。 | 排泄チェック表を基に、個人の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援に努めている。パットが汚れる前の声掛けを工夫したり、立位不安定の方もトイレでの排泄が可能であれば、二人介助で排泄誘導を行う等、排泄感を大切にしている。便秘予防には食べ物や水分、牛乳、運動などを取り入れている。医師と相談の上下剤対応をすることもある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェックにより把握に努める。便秘の方へは水分摂取の促しや、運動の機会を増やすなどの予防をしている。また、医師と相談の上、下剤での対応もしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 言葉かけ、促しのタイミングや方法に気を付けて支援している。入浴時間は基本的に日中に行っている。入浴する曜日などは決めていない。 | 冬場はヒートショック予防のため、早めから脱衣所や浴室を暖めて環境を整えて、入浴が楽しみに出来るようにしている。入浴は基本的に日中に行い、入浴する曜日などは決めていない。希望であれば毎日の入浴にも対応している。入浴拒否の方にも、言葉かけの工夫やタイミングに気を付けて支援している。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯など楽しんでもらえるように考えている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床時間は様々。日によって違う。その日の体調や、個人の習慣にも配慮し離臥床を行っている。昼寝をされる方もいる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 正確な服薬支援を行う為に、薬剤情報をすぐに確認できる状態にしている。変化があれば記録に残し、医師、看護師、薬剤師への報告、相談もできる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や個性を理解し、日々の充実感や楽しみを持って暮らせるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望に沿ってお花見や紅葉等季節を感じられるような外出が提供できるよう努めている。日常的な外出はまだまだ少ないが、誕生月の外出も実施されるようになってきている。スタッフと亡くなった妻の墓参りにでかけたり家族と自宅へ外出される方もいる。 | 日常的な外出は十分とはいかないが、買い物や散歩、更新の手続きなど機会あるごとに個々の希望に沿って支援をしている。一人で出かけた方には後ろから見守りをする事もある。お花見や紅葉等季節を感じられるような外出支援を計画したり、誕生月の外出も実施している。スタッフと亡くなった妻の墓参りに出かけたり、家族と外出など個別の支援にも取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理できる方は多少自分で管理している。それ以外の方は預り金として職員が管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 出来る限り希望にそえるよう対応している。入居してから年賀状を出している方もいる。今年は入居者からご家族への年賀状を出す企画を実施し喜んでいただけた。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全体的に落ち着いた雰囲気になるよう配慮している。廊下など暗くなりすぎないように配慮している。また、季節感のある掲示物も職員と入居者共に作成し、掲示してある。 | 2ユニットが同じフロアにあり、全体的に落ち着いたトーンの配色で雰囲気も落ち着いている。通常は間仕切りで区切られているがイベント時などは広く使えるようになっている。採光も考えられ廊下など暗くなりすぎないように配慮されている。臭いや湿・温度にも配慮されている。季節を感じる入居者の作品や、お雛様が飾られ入居者が和んでいる。10時と3時には体操開始の音楽が流れ、入居者は自由に参加したり、ソファで新聞を読んだりしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 各テーブルとソファ席でそれぞれ過ごせる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッドは入居時の搬入の大変さからホームで用意している。障子をはめ込み落ち着いた雰囲気を作り、その他の居室の家具は使い慣れたものを中心に家族に用意してもらっている。 | 窓に障子をはめ込み落ち着いた雰囲気の居室となっている。ベッドは備え付けであるが、家具や小物は使い慣れたものを持ち込み自分なりの居室空間を演出している。観葉植物や祭壇などを持ち込んだり、趣味の刺し子や読書を楽しんだり日記を書いたり、これまでの生活を継続できるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | シルバーカーや車椅子を使用しても移動しやすいスペースを確保している。居室、廊下、居間、トイレ等に移動する際にも段差がなく、一人で安全に移動できるようになっている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2392600124 | | |
| 法人名 | 医療法人信愛会 | | |
| 事業所名 | グループホーム秋桜の里 かきユニット | | |
| 所在地 | 愛知県豊川市三蔵子町北浦25番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年1月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年4月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosyoCd=2392600124-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階 |
| 訪問調査日 | 平成29年2月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人で、同法人のクリニックと訪問看護ステーションと提携し、24時間の医療連携体制をとっており、入居者・家族・スタッフの安心につながっている。訪問看護のほか、ケアプランセンター・多機能サービス・デイサービス(ケア)・ショートステイ等の在宅サービス・施設サービスとして特養・老健等があり、入退居にあたってはグループホームだけではなく、ご本人が必要とするケアサービスについて、入居者・家族・医療スタッフと一緒に考え検討していくことができる。ケアについては、季節の行事以外にも誕生日の外出や個別の外出を行っている。食事や休息・余暇活動等において一人ひとりの生活のリズムに沿った対応をこころがけ実践している。その先に看取りも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地の中に特別養護老人ホーム秋桜の里やショートステイ秋桜の里、ケアプランセンター秋桜の里等が建ち並び、その一角にグループホーム秋桜の里がある。クリーム色とブラウンのツートンカラーで落ち着きがある2階建て、1階が2ユニットのグループホーム、2階には穂の国訪問看護ステーション秋桜の里がある。今年で3年目を迎える施設は母体が医療法人であり、24時間の医療体制や訪問看護との連携で手厚い医療支援が提供されている。入居者や家族、職員の安心につながっている。入居者の介護度が上がってくる中で、本人や家族の希望により看取りまでの取り組みが行われている。「普通のことを普通にできる生活」を目指して入居者に寄り添いながら、職員間で協力し合って支援に努めている。家族からは「家族的な雰囲気ですてきな生活ので安心・明るい和やかな雰囲気です訪問しやすい」などの声が聞かれている。フロアーには入居者が書いた習字が飾られ、季節のお雛様の段飾りが置かれている。入居者は穏やかにこやかな表情で自分らしくゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は事務所に掲示してあり、毎週月曜日の朝礼で理念を首読し、共有・実践につなげている | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入り、地域の活動に参加している。地域の保育園とも特養を通じ交流している。定期的に回覧板が回る。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の人々に向けて貢献できるような機会をまだ作れていないのが現状。今後の課題でもある | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回の開催、町内会長、包括支援センター職員や入居者・家族と、活動報告を通して日々の取り組みを理解して頂いている。また、それぞれに意見をいただき、サービス向上に活かしている | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 豊川市の介護保険事業者連絡協議会に参加し情報交換をしている。市担当者とは様々な手続きを通して情報交換をし、指導・助言を受けている。また、豊川市の介護相談員派遣事業の受入もしている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中玄関は施錠していない。扉の開閉はチャイムで知らされ見守りを行う。他、徘徊に関しても見守りを行い拘束はしていない。また言葉遣いのアンケートも実施し、不適切な言葉遣いに注意している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止の研修を受講し、防止に努めている。気になるところはスタッフ間で注意し合っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要に応じて関係者との情報交換をし、活用に向けて取り組んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入退居時には、契約内容を具体的に説明し、不安や疑問に対しては十分な理解を得られるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議では参加者からの意見要望等もあり運営に反映している。普段の面会時でも、家族と話す機会を作る事で色々な意見を取り入れられるよう努めている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング等で職員の意見や提案を出せる機会がある。また出来る限り要望に沿えるよう努めている。年一回自己評価表の提出、職員満足度調査を法人で実施し意見の集約に努めている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 自己評価表、職員満足度調査職員など行い個々の状況把握に努めている。また、定年の延長や資格手当パート賃金の見直し等を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人研修をはじめ、個人の力量に合わせた研修システムがあるが、なかなか参加出来ないのが現状。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に参加し、他事業所との情報交換の場としている。法人内の事業所と合同イベントを行う機会もありお互いの刺激になっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面接等で本人や家族の要望や不安を伺い、案して暮らしていただけるよう信頼関係を築いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面接時に得た情報を、書面や口頭で職員に周知し信頼関係の構築に努める。また、家族や面会者に対し、気軽に話が出来る雰囲気を作る事で相談しやすい環境をつくっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 導入段階で、必要に応じ他のサービス、他の事業所の情報提供もしている。同法人のサービス以外にも、わかる範囲で近隣介護サービスの情報提供も行う。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、される側という関係より、共に生活するという気持ちを持ち接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時には近況を伝えると共に、その時の家族の思いや、家族しか知らない情報を聞き出せる機会と考えている。また、支援の内容によって家族に協力をお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 近所の知人や親戚等の訪問時は居室でゆっくり過ごせるようにし、気軽に足を運べる雰囲気作りに努めている。法事や墓参りに出かける方もいる。年賀状の作成も行い家族に向けて送付した。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者の個性を理解し、トラブルもあるが入居者同士の関係が円滑にいくような支援ができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用終了の際、いつでも訪問して頂けるように声を掛けを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話から本人の思い、希望を把握できる様努めている。困難なニーズに対しては代替案を検討している。点字等の資料も活用している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時は聞き取りにて基本状況を作成し、その後は本人や家族との会話の中で情報を収集している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中で小さな変化を見逃さない様に努めている。また、そのユニットでノートを作り、情報を共有できる様努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 各担当スタッフが中心となり、家人の意見や思いを反映させる仕組みとしている。さらに本人からの聞き取りを通じ、その思いの反映を充実させていきたい。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録の記入と、申し送り時や申し送りノートを活用することにより情報の共有に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 訪問看護・訪問診療以外にも、隣接している特別養護老人ホームや同法人のグループホーム・介護老人保健施設等と協力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 薬局・スーパーが近くにあり頻繁に利用できる。喫茶店にも出かける事が出来た。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に選択していただいている。24時間対応。月2回の訪問診療があるため法人の診療所がかかりつけ医となっている。かかりつけ医・協力医への受診は職員が行う。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと契約をし、週一回の健康チェックや、日常の相談、24時間急変時の協力体制をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 出来るだけ早期に退院できる様に情報交換に努める。退院に向けて事業所で準備することは事前に話し合いをする。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に家族に説明、医師同席で意向確認を行う。状態が変わった際には必要に応じて再度意向確認を行う。ホームにおいてできる事を説明し、隣接する特養も視野に入れ、「本人にとってより良い生活」を考えながら支援している。看取りを行う場合もある。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 初年度には上級救急救命講習会にほぼ全員参加し、緊急時に対応できるようにしている。研修参加や年2回程度訓練の機会を定期的に行っていく事が今後の課題となる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策は遅れている。夜間想定での訓練は実施できていない。今年度より法人でBCM委員会が発足。エリアでの防災対策も検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自分らしくありたいと思う気持ちを大切に してプライバシーの保護に努めている。個人 のスタイルを考慮して居室でも過ごせるよう 配慮している。また、入居者の個性や相性 も考慮して対応している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望をくみ取り、自己決定で きる様働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来るだけ本人の希望にそえるように支援 している。その人に合った役割を持てるよう 努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している | 清潔保持に努め、その人らしい個性を出せ るよう配慮している。自分で化粧をしている 入居者もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている | 週2回の自由献立の際、入居者と相談しな がらメニューを決め買い物から調理まで実 施している。能力に応じ野菜切りや盛り付け などの準備、食器拭き等、出来ることを行っ てもらう。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている | 献立は管理栄養士が作成している。必要に 応じて個別に水分量チェックも行っている。 また、嚥下に不安のある場合にはとろみをつ けたり刻みにして対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている | 毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応 じて声掛け・介助を行う。義歯の預かりも実 施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表に記入し、個人の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を促している。認知症が進行するにつれて、トイレでの排泄が困難になっている方もいる。立位が困難な場合には二人介助にて行う場合もある。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェックにより把握に努める。便秘の方へは水分摂取の促しや、運動の機会を増やすなどの予防をしている。また、医師と相談の上、下剤での対応もしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 言葉かけ、促しのタイミングや方法に気を付けて支援している。入浴時間は基本的に日中に行っている。入浴する曜日などは決めていない。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床時間は様々。午前5時から9時の間で日によって違う。その日の体調や、個人の習慣にも配慮している。また、状態に応じ離臥床を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 正確な行動する為に、薬剤情報をすぐに確認できる状態にしている。変化があれば記録に残し、医師、看護師、薬剤師への報告、相談もできる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や個性を理解し、日々の充実感や楽しみを持って暮らせるよう支援している。社会福祉協議会で点字を借り読まれているかもある。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望により散歩をしたり季節に応じてドライブをしたりする。買物などにも職員と出かけている。誕生月の外出も行った。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理できる方は多少自分で管理している。それ以外の方は預り金として職員が管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 出来る限り希望にそえるよう対応している。今年に入居者から家族への年賀状を出す企画を実施し喜んでいただけた。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全体的に落ち着いた雰囲気になるよう配慮している。廊下など暗くなりすぎない様に配慮している。また、季節感のある掲示物も職員と入居者共に作成し、掲示してある。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 各テーブルとソファ席でそれぞれ過ごせる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベツトは入居時の搬入の大きさからホームで用意している。障子をはめ込み落ち着いた雰囲気を作り、その他の居室の家具は使い慣れたものを中心に家族に用意してもらっている。写真や制作した作品を飾るなど一人ひとり雰囲気が異なる。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | シルバーカーや車椅子を使用しているも移動しやすいスペースを確保している。居室、廊下、居間、トイレ等に移動する際にも段差がなく、一人で安全に移動できるようになっている。 | | |